

210509八栗シオンキリスト教会礼拝宣教参考資料 ヨナ書1:4-16 「逃げるヨナ、追いかける神」
〈4-16節の構造〉

- A ヤハウエは風を海に投げつける。嵐が始まる。水夫たちは恐れて自分たちの神々に叫ぶ 4-5節a
B ヨナは寝ている。あなたの神に叫べ。私たちは滅びないだろう。神の主権性 5節b-6節
C 誰のせいなのか私たちが知るように 7節
D 水夫たちはヨナに尋ねる 8節
E 私は恐れている 9節
E' 水夫たちは恐れている 10節
D' 水夫たちはヨナに尋ねる 11節
C' それは私のせいであることを知っている 12節
B' 水夫たちは陸に近づこうと格闘し、ヤハウエに叫ぶ。滅びないように。神の主権性 13-14節
A' 水夫たちはヨナを海に投げ込む。嵐は止む。水夫たちはヤハウエを恐れいけにけをささげる 15-16節

・同心円構造（同じ中心をもつ円をもつ構造。この場合の円の中心はEE'）が見られる。動詞が対応している。この構造から、水夫の行動と心境の変化が見てとれる。

4 「主が大風を海に吹きつけられたので」

- ・「吹きつけられた」の直訳は「投げる」。この箇所でも繰り返される語。参照「4-16節の構造」

4 「船は難破しそうになった」

- ・直訳「船は壊されそうになった」
- ・受け身が使われている。行為者としての神が暗示されている。

5 「水夫たちは恐れて」

- ・水夫たちの恐れはこの出来事を通して変化していく。参照「4-16節の構造」

5 「それぞれ自分の神に向かって叫んだ」

- ・乗組員たちはさまざまな国の出身であったので、別々の神を拝み、助けを求めたのだろう。
- ・彼らはこの出来事の終わりには、共にヤハウエを拝む。

「一方、ヨナは船底に下りていて、横になってぐっすり寝入っていた」

・人々の目から離れたところに、神の目から隠れるように船に乗るヨナの心境が暗示されているのかもしれない。

・「ぐっすり寝入っていた」は熟睡を意味する。嵐が起こるも、ヨナはそれとは無関係に熟睡する。ヨナの眠りは現実逃避を暗示するかのよう。

6 「起きて」「願いなさい」

・「願いなさい」は「呼べ」が直訳。2節の「叫べ」と同じ言葉。「起きて」は2節の「立って」と同じ言葉。つまり、神がヨナを召された時の言葉がここでもじられている。

6 「もしかすると、その神が私たちに心を留め、私たちは滅びないですむかもしれない」

- ・同様の言葉が、後にニネベの王によって語られている。

Jonah 3:9 もしかすると、神が思い直してあわれみ、その燃える怒りを収められ、私たちは滅びないですむかもしれない。」

7「このわざわい」

・「悪」という意味の言葉。2節のニネベの「悪」と同じ言葉。この嵐を、単なる天災、自然現象ではなく、倫理的な悪として見ているということだろう。

9「主を恐れる者です」

・ヨナのこれまでの行動からすると、水夫たちにはこの告白は滑稽に聞こえたことだろう。

10「人々は非常に恐れて」

・ヨナが神の命令に背いて船に乗っていることを知り、ヨナの信じる神がこの嵐を巻き起こしたことを知って、恐れた。神の怒りによる嵐だと水夫たちは悟った。神の怒りの渦中に置かれているという恐怖。

12「海に投げ込みなさい」

・自分の命を投げ出して、船の乗客を助け出す提案をしているようにも見えるが、ヨナにとっては、ニネベに行くくらいなら、海に投げ込まれて死んだほうがマシだと考えての提案なのだろう。それほどまでにヨナにとってニネベは宣教しに行きたくなかったところだった。神のことばに従うくらいなら、死んだほうがましだと考えたのだろう。

13「海がますます彼らに向かって荒れてきたからである」

・ヨナを投げ込まない状態では、嵐はますます強くなった。

14「咎なき者の血の報い」

・水夫たちから見れば、ヨナはこの船の上で知り合った人にすぎず、そういう人を海に投げ込むことは、彼らにとって咎なき者の血を流すことに思われた。彼らはヨナの提案によりそうするのであって、ヨナの死の責任を自分たちに負わせないで欲しいと主に嘆願する。

14「あなたは、望まれたとおりになされたのですから」

・この新改訳の翻訳は神がすでに望まれたことを為したという意味。神が望まれたこととは何か？それは嵐を猛烈なものとし、ヨナを海に投げ込むしかないようにヨナや水夫たちを誘導したということか。

15「すると激しい怒りがやんで」

・ヨナを海に投げ込むことは主が求められたことでもあった。ヨナは海に投げ込まれて死ぬことで、主の命令に背こうと考えた。一方、主はヨナが海に投げ込まれてヨナを魚によって救出することで、主の命令に従わせようと考えた。ヨナと主の両者の思惑がずれる「ヨナの海への投げ込み」である。